

「令和5年度 新任(保育士・保育教諭・職員)研修会」報告書

【期日】令和5年5月26日(金)

【会場】佐賀県社会福祉会館 大会議室

【参加者数】85名(集合44名、オンライン41名)

【内容】研修1 12:30～14:25

「安心感のタンク」

講師 庄籠 道子 氏 (佐賀県保育幼児教育アドバイザー)

研修2 14:35～16:30

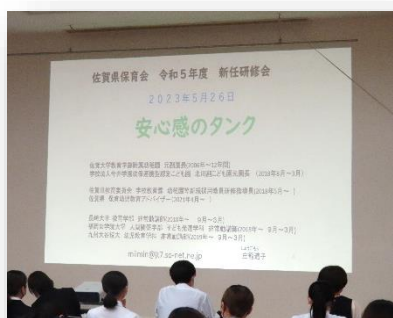
「初々しさを保育の力に」

講師 田口 香津子 氏 (公益財団法人 佐賀県女性と生涯学習財団 館長)



研修1 「安心感のタンク」

講師 庄籠 道子 氏 (佐賀県保育幼児教育アドバイザー)

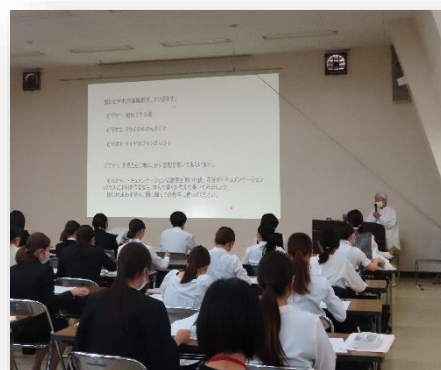


○ビデオ鑑賞・ドキュメンテーションの作成

➡ビデオを通した保育の振り返りは、子どもたちの遊びの中での友だち同士の関わりへの工夫や保育者が見守る事の大切さがわかる。

○様々な保育記録の書き方

- ・保育日誌(時系列に書くことが多い)
- ・エピソード記術 ・シナリオ型記述
- ・保育マップ ・保育マップ型記録
- ・ビデオ、写真
- ・ポートフォリオ
- ・ドキュメンテーション



○ポートフォリオとは

子どもの旬を大切にしたい個々の成長記録。エピソードを繋ぐ言葉で構成し、写真が語る事を大切にするため、決めつけた言い方は避けて記録する。

○ドキュメンテーションとは

教育標準時間内の保育で担任間で簡単に打ち合わせ、その日のトピックスを決めて作成する。情報量を絞って撮影し、子どもたちの学びを記録していく。

《保育所保育指針の改定のキーワード》

○主体性・自己決定

加藤繁美氏の著書 『子どもの文化』より「うさぎ当番を決めるお話」から読み解く

1ヶ月半かけて当番をどのように決めるか、子どもたちが話し合いながら決定していく。

➡1ヶ月半は無駄だったか？担任が決めてしまえばすぐに解決したか？

主体性の大切さを唱える時、以上児がメインだと思いがちだが、未満児も同じ。

『鼻が出てるね、拭いていいかな？』『お鼻拭くよ、いい？』ちゃんとその子の前にしゃがんで尋ねる。

鼻をとる時、ご飯をよそう時、食べる時、遊ぶとき、トイレに行くとき、オムツを変える時…

主体性・自己決定は人権を尊重することである。

○「安心感のタンク」

・安心感のタンクに水が満タンな子は時期が来れば自然と言葉・模倣・学習という、人として生きていくための大切な水が出る。

・安心モーター(父母)にくっついていることで、安心感のタンクには水がたまる。

子どもの機嫌が悪い時・いつもと様子が違う時には、「安心感のタンク」の水が減っていると捉えれば、少しは楽になるのでは…？

研修2 「初々しさを保育の力に」

講師 田口 香津子 氏 (公益財団法人 佐賀県女性と生涯学習財団 館長)



○格差・平等・公平・公正

格差…恩恵を受けて当たり前、差があることに気付かない

平等…一律のサポートがある、形式的平等(同じ大きさの踏み台を与えても塀の向こうは子どもには見えない)

公平…必要なサポートのある実質的平等(全員が同じ目線になるよう、身長差に適した踏み台)

公正…障壁が取り除かれた、誰もが見える視界

○私体の幸せと健康を高めてくれる要因

・良好な人間関係…友人の人数ではなく、たった一人でも信頼できる人がいるかどうか
が重要

○初々しいとは

・未熟だが初めての経験や挑戦の中で素朴・率直・純粹である

・不器用・不慣れ・失敗も起きがち。周囲に影響されやすい

➡保育においては、経験値の乏しさという共通点を持った子どもや、新米母親に近い
心情を持っている

○AI時代、人間だからこその分野とは

- ・パーソナルな事例対応
- ・その場に応じたクリエイティブな作業
- ・人の気持ちを汲み取る

○認知能力の前に育てたいのは『非認知能力』

- ・気付く力
- ・やり抜く力
- ・人と関わる力

○繊細な感受性=小さな変化に反応できる力

- ・オノマトペをたくさん使って、響き合う言葉を貯めておく
- ・五感の違いを味わう



➡子どもたちの日々のつぶやきを思い浮かべて、振り返る。
子どものつぶやきを記録して置き、振り返りの中で元気になっていく。

○経験値の乏しさ＝応用力が不足している『状態』に過ぎない
・そのままであることはない。経験は必ず成長の糧になる

○困った時にSOSを出せる力、『愛着』

○愛着形成が専門性の一つ
・困った時に相談できるのは、弱さではなく生きる力。
良好な人間関係を築く健康と幸福の一步



【感想】

子どもとの関りに於いて、主体的・自己決定ができるということが、人権を尊重することであると改めて考えさせられた。また、新採の保育士が初々しさを忘れずに保育ができるようにするためには、失敗をさせてあげられる環境であることが大切であり、先輩保育士の愛情のある関わりも大切であると感じた。

(文責：保育園ひなた村自然塾 倉富 麻衣)